



日本集中治療医学会

e-ラーニング試験問題の作成について

【1】e-ラーニング試験問題作成の基本的事項

- 1) e-ラーニングを実施して、その内容に関する問題を解くことにより知識を定着させることを目的とする。出題内容は、集中治療に関連した内容および集中治療科専門医資格更新に必要な領域を含むこと。
- 2) 出題範囲はe-ラーニングで講義した内容に準拠し、講義内容を超える問題や一般的知識レベルを問うような問題は原則として避ける。
- 3) 日本集中治療医学会専門医テキスト第3版や各種ガイドラインの内容に準拠する。
- 4) 問題の形式、用語、語句については共通の形式で作成されることが望ましい。
 - * 日本集中治療医学会用語集に準拠する。
 - * 問題の体裁について、学会側で修正作業が加わることもある。
- 5) 問題文は、簡潔かつ曖昧な表現がない明瞭な日本語の文章とする。
 - * 標準語を基本とし、現場で用いるカルテ用語や略語は極力さける。
- 6) 試験問題は、e-ラーニング1コマにつき5題作成する。
- 7) 試験問題作成後は、試験問題と共にすべての選択肢についての解説と正解を加えて、学会事務局に提出する。選択肢の解説では、根拠となる出典（参考文献、ウェブサイト）や「e-ラーニングのスライド〇枚目に記載」などを明記することが望ましい。
 - * 提出された試験問題および解答について、日本集中治療医学会専門医講習審査委員会により審議を行う。その結果、学会側で修正作業が加わる、あるいは修正を依頼する場合もある。

【2】e-ラーニング試験問題作成時の留意事項

- 1) 問題形式はすべてA型（単純択一形式）とする。
 - * A型：単純択一形式とは、正しい選択肢を一つ選ぶ方式である。
- 2) 一つの選択肢に複数の内容を含めないこと。
 - * 誤った記載例・・・「敗血症では意識障害と低血圧がみられる」
- 3) 否定形の出題は避けて、肯定形での出題が望ましい。
 - * 正しい記載例・・・「～である.」, 「～がみられる」
- 4) 設問が否定形の場合、選択肢は否定形にしない（二重否定を避ける）。
 - * 誤った記載例・・・「〇〇に含まれないものはどれか」に対し
「△△では××がみられない」

- 5) 設問文に否定形を用いる場合には、その部分を**太線**で記載する。
- 6) 原則的に選択肢は全て対等の重みをもたせ、同じ範疇のもので揃えること
*例：検査のみ、診断のみ、治療法のみ、で統一する、関連のない選択肢を意図的に加えない、など。
- 7) 各選択肢の長さは大体等しく、長すぎないものとする。
- 8) 選択肢は単純化が望ましく、例えば各選択肢を名詞一語にする方が良問になる。
- 9) 「必ず」、「常に」、「すべて」などの限定を示す語句は用いない。また、「ことがある」、「可能性がある」などの曖昧な表現も用いない。
- 10) 二律背反の関係にある選択肢のペアを含まないこと
例)「低ナトリウム血症」と「血清ナトリウムは正常である」が同時に含まれる、など
- 11) 略語や同義語については、full term もしくは和名を併記すること。ただし、日本集中治療医学会用語集に準拠し、full term や和名を併記しない略語については必要ない。
- 12) 選択肢の配列は論理的順序とすること（例：高位から低位、ABC 順、検査では侵襲度が低い順とし特殊検査は最後にする、など）
- 13) 選択肢の順序は、短いものから長いものへ統一すること（体裁を整える）
 - (a)○○
 - (b)○○○
 - (c)○○○○
 - (d)○○○○○
 - (e)○○○○○○○

【3】日本語表現の注意とポイント

- 1) 人名：原語の表記をそのまま記載する。
 - ・年齢別呼称
 1. 新生児 4 週未満
 2. 乳児 4 週～1 歳未満
 3. 男児・女児 1～12 歳
 4. 男子・女子 13～18 歳
 5. 男性・女性 19 歳以上
- 2) 薬品名：「～薬」と記載する。日本医薬品集（赤本）に準拠する。
市販薬（商品名）を用いる場合には、一般名の後に記載する。
※「副腎皮質ステロイド」はそのまま使用可
- 3) 「下記のなかで」「選べ」「もの」などの用語は設問文で使用しない。
 - * 設問文の記載に関する代表的な文例
「○○について正しいのはどれか」
 - * 誤った記載例：「下記の中で正しいものを 1 つ選べ」

4) その他、一般的な記載方法の例を示す。

- ・身長，体重，バイタルサイン：血圧，脈拍，呼吸数，体温，など
- ・尿所見：肉眼的所見，尿量，比重，浸透圧，pH，尿蛋白，ケトン体，尿潜血
- ・尿沈査：赤血球，白血球，ガラス円柱
- ・脳脊髄液検査：圧 (cmH₂O)，肉眼的所見，細胞数，細胞種類，蛋白定量，糖定量
- ・動脈血ガス分析 (正常値の記載は不要)：pH, PaO₂, PaCO₂, HCO₃⁻
- ・胸部単純 X 線写真、など：単純は省略可とし、胸部 X 線写真と記載可
- ・腹部超音波検査，経胸壁心臓超音波検査、など：腹部エコー、経胸壁心エコーと記載可
- ・年齢と性別：
 - *正しい記載：60歳の男性。
 - *誤った記載：×60歳，男性⇒日本語表記では「60歳の男性」が正しい。
- ・慣例で使用している用語：
 - *使用すべきでない表現：×生来健康、×著変なし
 - ×増悪がみられる：症状の表記では、「症状が進行した」、「症状が悪化した」が正しい。
- ・文は全て現代の標準語とし、カルテ用語，学会用語，名詞止めの表現は用いない
 - ×近位にて→○近位で
 - ×飲酒習慣なし→○飲酒習慣はない
 - ×皮疹は赤色：名詞止めなので不可となる→○皮疹は赤色である
 - ×下腿の変形認めず→○下腿の変形はない
- ・日本語の言葉使いに注意する
 - ×1日前より→○1日前から
 - ×発熱，悪寒，嘔吐がある→○発熱，悪寒および嘔吐がある
 - ×利尿剤→○利尿薬
 - ×救急車で来院した→○救急車で搬入された
 - ×適用→○適応

※検査成績の記載順序は，医師国家試験出題基準に記載されている順序を用いる。

以上